十勝毎日新聞
発行所
十勝毎日新聞社
電話371・1580番
帯広市東1条
南8丁目2番地

いつも気持の良いサービスの店
お茶の友に京都せんべい
銘茶
六市場
㊉丸共園茶舗
帯広市西2の10丁目126

歴史的な三市村合併實現

生産都市を目標

道東に強固な地歩印す

新帯広市誕生

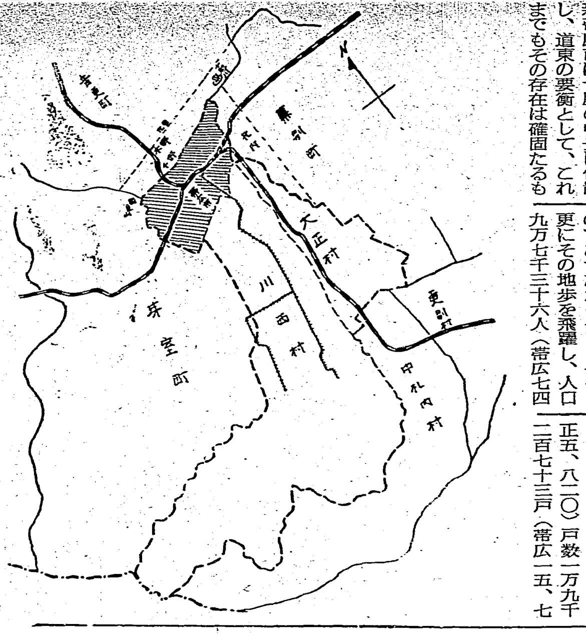
帯広市が過去二十数年間にわたり熱望した隣接川西村との合併問題は国が打ち出した町村合併促進法が側面的推進力の一因ともなり対象町村としては枠外ながらも、関係者のたゆみなき努力が漸く昨年十月、結実の段階にいたり、更には附随して、同法に基く対象町村である大正村が、既定事実視された中札内、更別との三村合併の戦列をきらつて市との合併に意欲を示し、本年一月、道知事勧告となつて決定的となるなど、この間には幾多の迂余曲折はあつたにしても、道東にほこる新興都市としての帯広市を一段と強固な地歩を飛躍させる基盤が築かれるに至つた

かくて本一日付で帯広、川西、大正三市村は晴れて合併の偉業を完成、正式に新帯広市が誕生し、将来の生産都市大帯広市を目指す歴史的巨歩を踏み出したが、関係市民の感激は一入新たなものがある

十万に及ぶ人口

戸数約二万戸

新帯広市は十勝の中央に位置し、道東の要衝として、これまでもその存在は確固たるものであつたが、今回の合併で更にその地歩を飛躍し、人口九万七千三百三十六人（帯広七四、六五九川西一六、五五七大正五、八二〇）戸数一万九千二百七十三戸（帯広一五、七五三川西二、四六六大正一、〇五四）連たん戸数一万四千二百七十五戸で、総戸数に対し八〇・五％、面積では六百十五平方キロ、東西十三・七キロ、南北四十七・十九キロの地域を占め、業態生業の状況は、都市的業態で商業三千百六十九戸、工業二千百六十六戸、その他七千百九十三戸計一万二千五百二十八戸、またその他の業態では農業二千四百四十八戸、その他千七百五十四戸、計四千二百二戸となつており、土地関係は宅地五百四十四町、田四百七十一町、畑一万九千七百四十六町山林二万七千五百八十一町、その他八百七十五町を擁し、産業面ではビートによる砂糖工業を含む工産三十九億六千五百七十二万四千円を筆頭に農産十八億二千九百九十四万四千円、畜産一億四千六百三十五万三千円、水産千九百八十四万円、林産五百七十四万二千円、鉱産百十八万六千円、総額六十億六千八百七十八万九千円の年間生産額をほこる生産都市として移行の基礎をもつに至つている



凸版は帯広新地図

官公署、教育施設

一方管内の諸施設、機関は、まず官公署で、一般行政関係四、司法同九、保安同八、教育同五十一、通信二十二、交通同二十、厚生同十、産業開発同二十一、税務財政同四、その他六となり、うち学校は小学校二十八校、三百六十九学級、児童数一万二千六百七十七名、中学校十五校百二十四学級、生徒数五千五百九十一名、高校六校九十四学級同四千三百四十九名、計四十九校四百八十七学級、児童生徒数二万二千六百十七名となり、他に教員養成所、畜産大学の二施設をもつことになる

更に文化施設として図書館一、公会堂二、公民館三、公営企業として上水道、衛生施設は病院六十、診療所九、娯楽施設で劇場二、映画館七、会社工場関係はまず経済面に大きな影響力をもつ金融機関が本店関係二、支店関係十三が存置され、他では資本金五百万円以上の企業体百二十五、同百万円以上三百九、同五十万円以上九十などがあり、その規模からは十万都市として遜色のない形態を示し、かつての消費都市帯広から農産工業面を第一義に、林産工業なども併せ、生産都市帯広としての将来の飛躍が大きく期待されている

以上の概況を基礎として新市帯広は今後新市建設五カ年計画を第一次に着々整備されるが、市の行政面からは三十二年度予算六億二千七百五十九万四千四百円、三十三年度同六億三千二百八十万四百円、三十四年度六億百五十八万五千三百円、三十五年度同五億九千九百七十八万九千三百円、三十六年度同六億二千五百七十三万五千円、五カ年計三十億八千七百五十万四千四百円の規模のもとに、基本方針として

①広範囲な農耕適地を含む未開発地の開発によつて土地利用の高度化と生産力の増強、土地改良の推進、有畜農業の確立、機械化の導入によつて工業的農業都市への移行をはかり、同時にこれに関連した工業の振興をはかり農工一体的発展を期す

農工を一体に振興

②市域内、特に合併地区における交通、通信網の急速な充実をはかつて社会生活条件を均一化、高度化し、農村地域の生活環境の向上と都市地域との経済交流を密にし飛躍的発展を期する

③都市計画の再編成をおこない、都市態勢の急速な整備拡充をはかる一方商業をはじめとする各種都市的産業ならびに政治的、経済的、文化的な各種施設、機関などの整備拡充をおこなつて都市の近代化高度化をうながし将来の大帯広市建設の基礎をつくる

④以上の諸施策をもとにした急速な都市力の増進、ならびに市有林の造成を含む財政力の伸展を基礎にして効率的な市政運営を行い、教育、文化施設の整備拡充、土木事業の積極化、消防施設の充実、公営住宅、その他社会施設拡充保健衛生、生活環境の向上等新市の行政を強力に推進し住民福祉の増進をはかる、の四点をあげ、逐次具体的な実施により名実ともに新帯広市の完成をはかられることになつている

市民平等の福祉を完成

★吉村市長　帯広市史に輝しい一頁を記録する非常に喜ばしいこととして本四月一日付で茲に川西、大正両村との合併がなり、人口において十万、面積にして六百十五平方キロ、大家畜の数においては日本一を誇る新帯広市が誕生したのであります、過去卅数年にわたり、本日の合併促進のために尽瘁された市、村多数の諸先輩のご労苦をしのび、又誠心誠意これが解決に当面された関係者各位にはふかい感謝と敬意を表すると同時に、市民の皆様とともに大いなる感慨の中にこの事実を確認いたしたいと存じます、今さら申上げるまでもなく、帯広市は十勝の中央に位置し、この地方の政治、経済、文化、交通などあらゆる部面の中枢をなし同時に道東地区におけるもつとも主要な地点として近年とみに発展の歩をはやめ、輝ける将来を約束される新進都市であります、私はこの躍動する新帯広市をして、今後さらに総合的、計画的に発展せしめたいと存じますが、先ず第一に合併地区との、いわゆる地域差をできるだけ早期に縮め、三市村民の精神的融和をはかり、誰もがおなじ帯広市民として同等の幸福と福祉をうけるようこの完成を念願するものであります

次に広大な農林畜産地帯を背景として、各種産業の発展をはかり、従来の消費的都市から一歩前進して、農工生産力を基盤とした都市に移行をはかり、経済拡張、都市構造の拡大につとめ、新都市計画の編成をおこなつて、都市の近代化、高度化をうながし、これらの施策を基礎として、積極的、効率的に市政の運営を行い、所期の目的である市勢の発展と市民福祉の増進をはかりたいと考えるのであります

豊かで明るい帯広市に

★柴田市議会議長　市民各位の温い抱擁と関係町村住民の深い御理解と御協力、更には関係者のたゆまぬ努力により、四月一日を期し、川西村、大正村を合併して、人口十万を擁する大都市として道東に君臨する地位を占めるに至つたことは市勢進展のためまことにお慶びに堪えません、今後は新しい市民となられた川西大正の皆さんを迎え、共に渾然一体となり、新市建設計画の目的にそい、豊かな明るい郷土帯広の建設に最善の努力をつくしたい念願であります市民各位の御協力をお願い致します

★竹市川西村長　三十四年間続いた川西村が四月一日を期して帯広市と合併したが村民一同感慨深いものがある、今後は十勝の農村商業都市として栄えることを願うばかりだ、そもそも川西村と帯広市合併問題は多年にわたる懸案であつたのが、ここに実現をみて大十勝市の第一歩を踏み出すいしずえとなつたことは幸いである

★諸戸大正村長　四十年の歴史を持つ大正村が無くなり、新帯広市の構成一因子としてつとめることになつた、今後は旧帯広、川西住民とともに手を携え新帯広建設の目標にむかい過去の行きがかりを捨て大正村民も努力することをお約束する

随筆

私たちの郷土帯広は、今日から元の姿を失い、新しい性格の都市として生れ変ることになつた

新帯広市の誕生に当つて、数十年の歴史に終止符を打つた川西村、大正村の住民たちがそれぞれの母村に惜別の情を禁じ得ないでいるのと同様に帯広市民もまた「古く、なつかしい帯広」との袂別に際して一片の傷心を抱いているに違いない

思えば帯広という街は、特性らしいものをほとんど持つていない点を特性とした小都会として、ここまで育つてきた、特異な生活環境を醸し出す要素がきわめて少いことが現代では逆に特異な現象とされ、社会科学者に貴重な資料を提供してきた程だ、つまりこの帯広において発生する「貧困」とか「犯罪」とかの社会悪の現れ方は、他都市におけるそれより遥かに純粋な過程をたどつているということだ

道内の都市についてみよう札幌は文教の府であり、一大消費都市、小樽は商港都市であり、この二都市は互いに結びつくよりも反発し合うように宿命づけられている、函館は港湾とイカ漁と北洋漁業基地の三点から支配を受け、室蘭は鉄工業と港湾の下じきになつている、苫小牧の都市経営者は紙パルプであり、夕張や赤平などの炭鉱都市は説明するまでもなく炭塵にその生命を委ねている、岩見沢は炭鉱地帯と大札幌とに挾まれて喘ぎ、釧路はサンマ漁に一喜一憂、北見と網走とは、いまだに主権争奪戦を続けてエネルギーを浪費している、留萌の王様はニシン漁であり、稚内の主人は依然として樺太であり、千島に見放された根室は半身不随に陥り発育を停止してしまつた、旭川は帯広と相似点が多いが、その生成の背後に旧日本陸軍が果した役割は、ここ当分拭うべくもない

田園都市「帯廣」

小林正雄

これら他都市のほとんどは多かれ少かれ多力依存の面を持ち、その他力の消長から致命的な影響を受けて、性格を歪めてしまつた、鉄鋼ストが一年も続けば室蘭の火は消えるし、魚が来なければ留萌や釧路はたちまち干あがるのだ

帯広は「農村都市」と言われてきた、帯広も十勝農業の盛図に影響されてきたことは事実である、だが畑作農業のもたらす経済的な余波は、しごくゆるやかだ、豆相場は豊作年に安く、凶作年に高く、常にバランスを保つている、しかも農民が帯広に求めてきたものは、主として生活必需物資であり、最低線の消費物資だ、不作でも、借金しても農民は帯広の市場で買物をしてきた、これが帯広の強味だつた、第一次大戦直後の「豆景気」を除いて、農民は漁業や鉱山や特殊産業のようなバカ当りがない代りに、良くも悪くも安定している、その農民をバツクアツプとして地味に生長してきたのが帯広だと思う、だからこそ帯広は、蹉つまづくことなく順調に育つたのだ

帯広は、その人口面だけを捉えてみても、その発展ぶりは全国的に優位にあるが、その原因を具体的に指摘することは、誰にとつても至難の業であろう

ここで想い起すのは晩成社の仕事である

依田、鈴木、渡辺らの晩成社が、明治十五年この地を最適の開拓地として選定、翌十六年農業移民団を入地させたのが帯広の始めとされている

ところで晩成社の目的は、ここに都市を建設することではなく、理想的な農場もしくは農村を作ることにあつた筈だ、それが志とたがい、かかる帯広となつたわけで、人によつては運命の皮肉を喫ずることであろう

さて、その「古い帯広」は今生れ変ろうとしている「農村都市」を呼名される消費都市が、ここに広大な農山村地帯を抱擁して、一挙に生産都市となる、言い代えるなら国内稀にみる「田園都市」が出現したのである

農業地として七十幾年前に出発した帯広が、市街地としての歩みを進め、ここに三転して「田園都市」を形成する

帯広再生の日、四月一日を迎えて「我が意を得たり」として最も喜んでくれるのは、或は地下の晩成社員であろう

この一文、「古くなつかしい帯広」に対する送別の辞として書いた、同感できる人はないであろうか

君知るや
まりものワイシヤツ
本店大通り十一
支店宮通り八

毎日片々

待望の帯広市、川西村、大正村の合併茲に実現、輝かしき新市の前途に幸あれ

◇

川西、大正両村とも光輝ある村史に終止符うつ、村民の感また無量というところ

◇

両村を合併して一息入れた帯広市、次に打つ手は音更か、幕別か、あわててはコトを仕損ずる

◇

境変委の中札内村調査、村側は合併への前提と歓迎、市の本当の肚はそこまで行つていない

◇

商店街発展のガンと帯広郵便局庁舎の移転陳情、現帯広市庁舎跡が最適か

東海媚女傳（とうかいびじょでん）

（14）

野沢純作
土端一美画

梗概　○…時は将軍吉宗治政の享保十八年、連綿と続いたお江戸情緒は両国の川開き、川を挟んだ両岸は人出の垣で山のよう、川面に浮ぶ猪牙、伝馬が絢爛と繰り出しての大盛況、そこえ日本橋横山町絹問屋の大店若尾張屋喜兵衛の一人娘名はおりうお乳母を連れての忍び姿、同じ屋形船ですれ違つた眉目秀でた白皙の若侍に一目惚れ、おりうは幼い時からお乳母日傘の我儘育ち、一途な想いに駆られて床に伏し、踊りも稽古も手につかず、お乳母は八方手をつくして若侍探しに奔走中、おりうの母は喜兵衛が後妻に迎えた女盛り、主人の目を盗んで番頭島蔵とねんごろの仲、それを知つてかおりうは母になつかず、若侍への思慕はつのるばかり果して若侍は何処に……

夏芝居（一）

火事と喧嘩は江戸の花——などというが、おだやかならない花の中でも、芝居こそ、げにも美しき江戸の花。堺町の中村座や、葺屋町の市村座、猿若町の守田座など江戸の三座といわれた程の芝居小屋である。

十三間の間口を張つて、梵天建ての高やぐら。鳥居丸の絵看板がずらりと並んで、入れ形勘亭流の芸題文字。

組物格子の鼠木戸を目がけて、見物衆は、夜のしらじら明けから詰めかける。

春夏秋冬花不断
東西南北客争来

とは、まさにこの事。

世の中は団十郎や江戸の春

と句に詠われるゆえんである。

伊勢音頭恋寝刃
福岡貢
油屋おこん

今を時めく市川小団次の、芝居総見の日ともなると、尾張屋でも朝早くから、支度おさく。例によつて、庭の潮入泉水から、猿花町を目ざして、山谷堀まで船を繰り出す。

船の中には、船橋屋の菓子のお重から、料理は同じ深川の比良清、八幡境内の松本の弁当。その上、山谷の八百膳を近くに控えて、お召替えの衣裳つづらまで、運び込もうという豪勢さ。なにさま、十万石の旗本、大名以上の遊びである。

この日、おりうは、あまり気が進まないながらも、乳母のお幾や、延千賀師匠にすすめられて、猿若町の芝居見物にまじつていた。

夏芝居とあつて芸題も夏にふさわしく、伊勢音頭恋寝刃（いせおんどこいのねたば）例の油屋五人斬り。寛政八年、伊勢の古市、油屋で、宇治山田の医師、孫福斉（まごふく、いつき）という名の男が、痴情の果てから仲居のおまんをはじめ、五人を手かけ、そのうちお岸とお寄沙、および阿波の客を死に至らしめた——

という、世上まことに起つた事件を、そのまま脚色。

福岡貢に白絣を着せて、夏芝居の趣向を凝らしただけに大評判。演ずる小団次がまた凝り性で、上方から、江戸へ出て来たばかりの、まだ仲蔵といつていた時分、振当てられた役柄が、忠臣蔵五段目は山崎街道の定九郎。

それまで定九郎の拵えといえば、五右衛門ばりの百日かつらに、黒びろうど衣裳。丸ぐけ帯でやつていたのを、どうにもピンと来ない——という考えから、

（何とか、新しい工夫をしよう）

と思い立ち、柳島の妙見堂へ日参をしている折からの俄か雨。

破れ張りの茶店で暫く、雨のやみ間を待ち休んでいると、そこへビショ濡れ姿でとび込んで来た一人の浪人。

まげは五分さかやきの大銀杏。ようかん色の五つ紋に、ヤマのきれた博多帯。破れ蛇の目の傘をすぼめて、しずくを切るのをじつと見ていた仲蔵である。

（なるほど、これだ！）

はたと膝打つ思いで、小屋に戻ると早速そのまま。

水のしたたる蛇の目をすぼめて、ツケで花道——から驅出して、本舞台の稲村の陰へ入るまでを、如実にやつて大かつ采を博した。

……さてその舞台裏では、どうやら二丁が鳴つている。

祝　帯広市・川西村・大正村合併　四月一日

帯広市役所
市長　吉村博
助役　田上与四市
収入役　新井甚七

議長　柴田幸七郎
副議長　鈴木重蔵
議員　高橋博信　荘田清一　但田清二　下条善猛　田森善治　岩崎勇五郎　吉田忠吾　小沢喜知　東石勝　角田隆一　千葉一郎　玉村直一　船戸友一　永野薫　鈴木正己　高田産作　駒込勲　田守佐吉　筒井五三郎　樋口秀一　梶野善映　山田勇太郎　西雪清太郎　橋本勇　佐藤富治　藤田芳造　熊倉郡治　永見武雄（議席順）
事務局長　水野正光

北海道教育委員会十勝事務局
局長　紅林晃

帯広市教育委員会
委員長　中村雅一
千葉義雄
志田はしめ
高橋武雄
教育長　村瀬岩尾

十勝支庁長　奥山孝

帯広開発建設部
部長　和田清隆

帯広営林局
局長　安岡博

帯広土木現業所
所長　吉田了忠

帯広営林署
署長　工藤四郎

帯広税務署
署長　二反田順治郎

帯広市議会議長　柴田幸七郎

帯広市議会副議長　鈴木重蔵

衆議院議員　本名武

北海道議会議員　宮坂寿美雄

北海道議会議員　朝日昇

北海道議会議員　堀田毅

北海道議会議員　西島順三

北海道議会議員　渡部勇雄

北海道議会議員　道下美作

謹啓　早春の候貴職益々御清栄の事と拝察し深くお慶び申上げます
扨て本村は大正十三年一月大正村より分村以来三十有余年を経てその間各位の絶大なる御支援により純農村地帯として自治の発展を見て来た処でありますが本一日を期して十勝の中心都市帯広市と合併致しました
従来は貴職より本村に寄せて戴いた御好意については改めて厚く御礼申上げます
幸い合併後においての目途も益々明るい見透しにありますので旧に倍して宜敷しく御教導を御願い申上げるものであります
貴職の御多幸を心からお祈りし御挨拶申上げます
敬具
河西郡川西村長　竹市一巳

川西村役場
村長　竹市一巳
助役　三輪光治
議会議長　山崎静一
副議長　栗原留八

川西農業協同組合
組合長　眞鍋義秀
専務理事　杉本明
参事　吉守匠

大正村役場
村長　諸戸義久
助役　池永一三
議会議長　中村勝治
副議長　山本与増

大正農業協同組合
組合長理事　道下美作
専務　奥村喜十郎
常務　久保与一郎
参事　石塚一雄